

平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年 国語68人 算数68人 理科68人

第5学年 国語72人 算数73人 理科71人

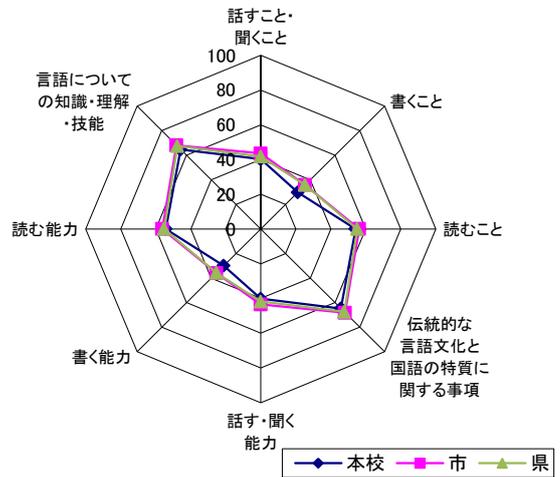
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	40.2	43.5	41.8
	書くこと	29.9	35.9	35.8
	読むこと	54.2	56.3	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	64.8	68.2	67.5
観点	話す・聞く能力	40.2	43.5	41.8
	書く能力	29.9	35.9	35.8
	読む能力	54.2	56.3	55.2
	言語についての知識・理解・技能	64.8	68.2	67.5



★指導の工夫と改善

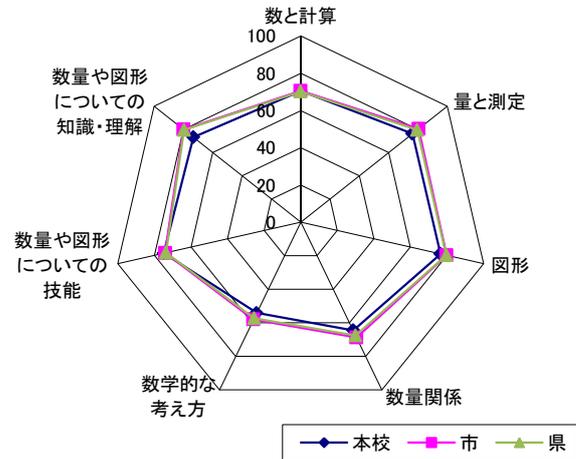
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○話の中心に気を付けて聞き、意見を述べる内容の設問では、正答率が54.4%で、県の平均を3.0ポイント、市の平均を2.0ポイント上回った。</p> <p>●話し合いにおいて司会者の役割を理解し、進行することについての設問では、正答率が58.8%で県の平均を3.9ポイント、市の平均を7.1ポイント下回った。</p>	<p>・話し合い活動における司会者の役割を理解させるとともに、聞くことや話すことの知識・理解に関する内容をポイントを絞って復習し、習熟を図っていく。</p> <p>・国語の授業ばかりでなく、他教科・領域等においても、話すこと・聞くことの指導を継続的に行っていく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は他の領域から比べると低い。</p> <p>●招待状についての問題では、招待状に入れる二つの内容を一文にまとめて記述する設問での正答率が、23.5%で、県の平均を10.5ポイント、市の平均を10.7ポイント下回った。</p>	<p>・自分の考えを書いたり、学習したことをノートにまとめたりしてきたことを、これまで通り行うようにする。</p> <p>・書き方の型をこれまで以上に丁寧に示し、より具体的な内容に踏み込んで指導した上で、各自が取り組むようにしていく。</p>
読むこと	<p>○指示語(これ)がさす内容をとらえる設問では、正答率が63.2%で、県の平均を1.9ポイント上回った。</p> <p>○記述を基に、登場人物の性格について想像して読む設問では、平均正答率が76.5%で、県の平均を4.5ポイント上回った。</p> <p>●文章と図を関連付けて読む問題では、平均正答率が41.2%であり、県の平均を7.7ポイント、市の平均を9.9ポイント下回った。</p>	<p>・物語文では、言葉を手掛かりに想像を膨らませて考えたり、説明文で文章のつながり方を学んだりしてきたことが、成果として現れているので、今後も継続して取り組んでいく。</p> <p>・図や絵などの非連続型テキストを自分で読解したり、説明する文章との関係を考えていったりする活動を行ってきたが、まだ定着が十分とは言えないので、今後は重点的に取り組むように、授業の展開を工夫していく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>漢字の読み書きはほぼ県や市の平均と同じであった。</p> <p>○国語辞典の使い方に関する問題では、正答率が67.6%で、県の平均を1.9ポイント、市の平均を4.9ポイント上回った。</p> <p>●漢字の学習では、概ね良好であったが、一部の児童に課題が見られた。</p>	<p>・漢字の読み書きの学習は、帯単元として実施しているので、今後も継続して行っていく。また、家庭学習との連携を図りながら、練習が不足している子に対する指導を行っていく。</p> <p>・国語辞典や漢字辞典を教室に配置し、これまで通り、主体的な学習を図っていくとともに、まだ習熟が図られていない児童には個別指導を重点的に行っていく。</p>

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.6	70.5	70.3
	量と測定	76.2	80.4	79.6
	図形	76.5	79.8	79.7
	数量関係	64.5	68.7	67.5
観点	数学的な考え方	54.1	58.0	57.2
	数量や図形についての技能	74.8	74.1	73.7
	数量や図形についての知識・理解	73.2	79.9	79.5



★指導の工夫と改善

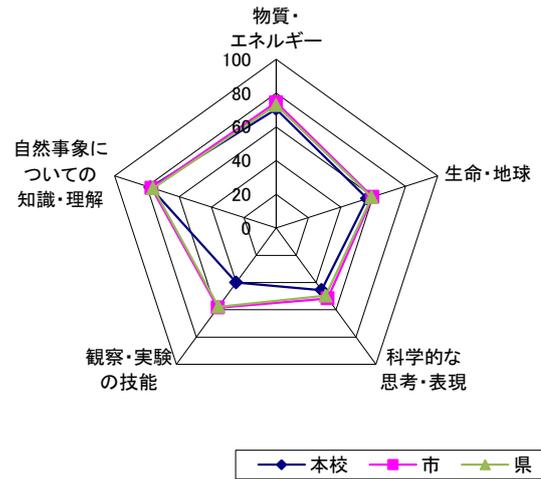
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○「たし算とひき算」に関する設問の正答率は90.4%で、市の平均より5ポイント、県の平均より5.5ポイント高い。 ●「小数の計算」に関する設問では、市の平均より6.8ポイント、県の平均より6.7ポイント低い。また、「数直線の目盛りを読み取り、分数で表す」設問では、市の平均より16.8ポイント、県の平均より18.6ポイントも低い。	・わり算の筆算の仕方の定着に向けて、かけ算九九の習熟やひき算の筆算の仕方の理解など、基本的な計算練習を繰り返し行うようにして、計算力の向上を図りたい。 ・分数や小数の単元に入る前にレディネステストを実施し、必要に応じて復習をしたうえで、課題に取り組むようにしていきたい。
量と測定	○「ある時刻から一定時間前の時刻を求める」設問では、正答率が86.8%で、市の平均より6.2ポイント、県の平均より8.2ポイント高かった。 ●「およそ1kgのものを選ぶ」設問では、市の平均より20.8ポイント、県の平均より19.7ポイントと大幅に低かった。また、単位を換算する設問においても市、県ともおよそ5ポイント低かった。日常生活における算数的活動に課題が見られる。	・単位を換算する問題でつまづきが見られたので、時間や長さ・かさ等、それぞれの量的な違いを確実に理解させ、習熟を図っていきたい。また、生活の中でも身近なものの重さを推察する機会を設け、学力の定着に努めたい。
図形	○「与えられた1つの辺の続きを書いて正三角形を完成する」設問では、正答率が91.2%で、市の平均より7.5ポイント、県の平均より8.3ポイント高かった。作図の習熟に一定の成果が見られる。 ●「半径3cmのボールが縦に3つ入った筒の高さを求める」設問では、市の平均より9.3ポイント、県の平均より9.2ポイント低く、「2つに折った紙を直線で切り、開いてできる図形を選ぶ」設問でも市の平均より6.9ポイント、県の平均より7.2ポイント低かった。	・円の直径や半径を確実におさえ、理解を深めさせたい。折り紙などを使った算数的活動を増やし、児童の気づきをより多く引き出す学習を心がけたい。
数量関係	○「□を用いた情報の式に適した場面を選ぶ」設問では、市・県とも平均点をやや上回る結果だった。 ●棒グラフから条件にあう曜日を選ぶ設問では、市の平均より10.6ポイント、県の平均より10.1ポイント低かった。	・棒グラフの理解の定着には、表とグラフの関係性を確実に理解させていきたい。 ・棒グラフに関するプリントを活用し、グラフの作成や条件に合った読み取りの機会を増やすことで、グラフに慣れさせるとともに、復習の機会を設けていきたい。

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	70.6	74.5	72.9
	生命・地球	56.3	59.8	59.2
観点	科学的な思考・表現	45.5	51.6	49.7
	観察・実験の技能	40.0	58.4	57.7
	自然事象についての知識・理解	77.8	77.0	76.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○「風やゴムのはたらき」については、市・県とも平均をやや上回っている。設問ごとにみると、「実験結果から必要なゴムの伸びを推測する」が、市を4.2ポイント、県を5.7ポイント上回っている。</p> <p>●「磁石の性質」では、市の平均を6.5ポイント、県の平均を4.6ポイント下回っている。また、「電気の通り道」については、市の平均を18.8ポイント、県の平均を16.2ポイントと大きく下回っている。設問ごとにしてみると、「電気を通すつなぎ方」では、市の平均を18.7ポイント、県の平均を16.5ポイント下回り、「回路を作る際の導線の安全なつなぎ方」については、市の平均を31.9ポイント、県の平均を26.4ポイントと大幅に下回っている。</p>	<p>・「電気の通り道」の単元と「磁石の性質」の単元とでの正答率が市や県よりも大幅に低い。「回路」や電気を通すものと通さないもの、磁石のひきつける力などの知識・理解の部分で定着していないことが分かった。今後、各単元において基本的知識が身に付くよう、観察や実験をするときの着眼点をしっかりとおさえて指導するように改善していきたい。</p>
生命・地球	<p>○「昆虫がたまごを生む場所と食べ物とを関連付けて考察する」の設問では、市の平均を5.6ポイント、県の平均を7.7ポイント上回った。また「かげの長さ調べの結果から日時計の製作を改善する」設問では、市の平均を6.4ポイント、県の平均を8.1ポイント上回った。</p> <p>●「虫眼鏡の使い方」では、市の平均を28.3ポイント、県の平均を29.0ポイント下回り、「方位磁針の操作方法」についても、市の平均を19.9ポイント、県の平均を20.9ポイントと下回り、道具の操作が定着していない。</p>	<p>・「身近な自然の観察」の単元において、とくに虫眼鏡の正しい使い方が定着していなかった。また、方位磁針の適切な操作方法が身に付いていないので、実験や観察の時に、適切な操作方法をおさえ、正しい使い方を身に付けさせたい。</p>

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「早寝、早起きを心掛けている」や「食事のときに、好き嫌いをしないで食べている」の肯定的回答率が市や県の平均より高く、基本的な生活習慣が身につけている傾向が見られた。これは、学年・学級懇談会で保護者の啓発を行ったり、日常の児童指導の中で重点的に行ってきたことであり、その成果といえよう。今後も継続して指導していきたい。

○「人と話すことは楽しいですか」の肯定的回答率は98.5%と高い。これは、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」ことの肯定的回答率が85.3%で市の平均に比べ2.9ポイント高く、また、「学級活動の時間に、友達同士で話し合っただけでクラスの決まりなどを決めていると思う」の肯定的回答率が82.4%で市の平均を3.0ポイント上回ったことと関連していると考えられる。これらは、さまざまな場面で話し合い活動を意図的に取り入れてきたことの成果であり、今後、活動の質を高めていけるような指導を行うようにしていきたい。

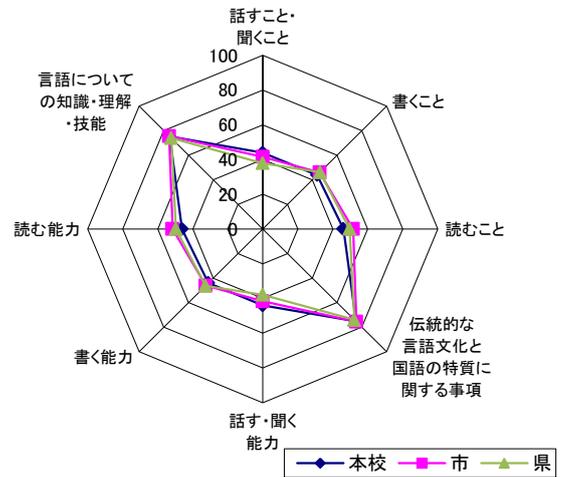
●家でのきまりや約束を守っている」の設問では、肯定的回答率が79.4%であった。これは、市の平均よりも8.0ポイント、県よりも7.9ポイント低かった。しかし、ゲームをやる時間やテレビを見る時間などの相関関係をみると、市や県の平均と同様であることから、行動面での問題にはつながってきてはいないと推測される。家庭でのきまりや約束などについて考えていく機会を設定し、家庭教育の充実を図っていきたい。

●学びに向かう力の自己責任のカテゴリーが低い傾向にあった。「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の肯定的回答率が60.3%、「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」などの肯定的回答が72.1%で、市や県の平均に比べ10ポイント以上落ち込んでいた。今後は、これまで以上に主体的に物事に取り組む態度を賞賛したり、叱咤激励したりして、自ら進んで行おうとする態度を養っていけるように働きかけていく。

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	44.0	41.6	37.9
	書くこと	44.0	46.1	46.3
	読むこと	46.1	51.6	49.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.3	75.6	74.0
観点	話す・聞く能力	44.0	41.6	37.9
	書く能力	44.0	46.1	46.3
	読む能力	46.1	51.6	49.7
	言語についての知識・理解・技能	75.3	75.6	74.0



★指導の工夫と改善

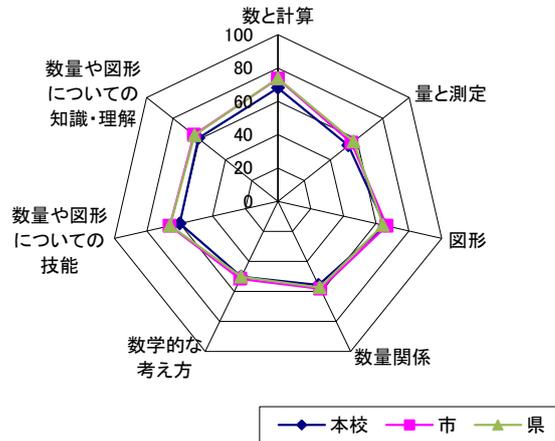
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行する」については、県平均を11.7ポイント上回っている。	・1分間スピーチや授業で「話すポイントかきくけこ」「聞くポイントあいうえお」を常に意識させる指導を継続する。グループにおける話し合い活動では、友達の話をよく聞き、友達の話の工夫した点を考えながら聞き、それを伝える活動を意図的に増やしていきたい。
書くこと	○「目的に応じて資料の見せ方を工夫する」については、1.4ポイント上回った。 ●「目的に応じて文章を要約する」については、県平均を3.1ポイント下回った。	・国語の授業のみならず、学活や総合的な学習の時間などで、テーマを意識した文章を書いたり、段落ごとの役割（「理由」「具体例」「まとめ」）を理解して書いたりする活動を意識的に取り入れていきたい。
読むこと	○「段落相互の関係を押さえて読む」について、県平均を2.8ポイント上回っている。 ●「叙述を基に登場人物の気持ちを想像して読む」については、県平均を3.6ポイント下回った。	・音読を継続指導するとともに、朝の読書や読み聞かせ、本の紹介などを通し、進んで本に親しめるようにする。 ・教科書教材を通して、段落相互の関係や場面の様子など丁寧な読み取りを進めていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○県や市の平均を上回っているものが多かった。「ことわざの使い方」については、県平均を0.4ポイント上回っている。	・前学年の漢字を朝の学習や宿題に取り入れて定着を図る。また、書く活動において、既習の漢字を積極的に使うよう指導していきたい。

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.1	73.6	73.7
	量と測定	53.7	56.2	57.7
	図形	65.4	66.5	64.2
	数量関係	55.8	58.4	57.5
観点	数学的な考え方	50.3	51.7	50.3
	数量や図形についての技能	60.0	66.1	65.9
	数量や図形についての知識・理解	60.7	64.0	63.5



★指導の工夫と改善

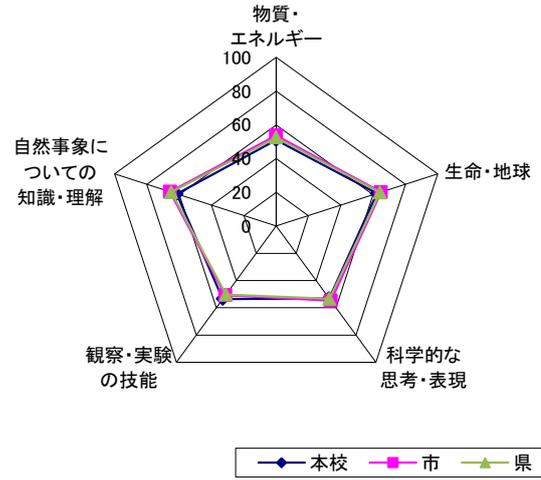
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○「わり算」や「小数」に関する設問正答率は、79.5%と75.3%で、県平均より9.2ポイント、4.6ポイント上回った。 ●「与えられた数を四捨五入して千の位までの概数にする」については、68.5%で、県平均より11.3ポイント、市の平均より10.4ポイント下回った。	・正しい計算結果を得るため、結果の見積もりをしたり、計算の仕組みや数の相対的な大きさに着目して計算の仕方を考えたり、結果を振り返り確かめるようにしたい。 ・小数のかけ算については、その後に学習する小数×小数の計算や、小数のわり算の基本となる計算であるので、つまずきが見られる児童には、小数×整数の計算に戻って確認させていきたい。
量と測定	○「図を用いて比較量と倍から基準量を求める式を選ぶ」について、県平均より3.4ポイント上回っている。 ●領域の正答率は53.7%で市平均より2.5ポイント、県平均4.0ポイント低い。正方形のタイルの面積を求める設問の正答率は、53.4%で、県平均より10.0ポイント低い。	・既習内容を活用し、その根拠となる事柄を解明していくために、場面や数量などの条件を変えて発展的に考える活動を取り入れるようにしたい。 ・日常生活の事象において、幾つかのものを比較したり、いつでも比較できるようにしたりするために、合理的判断や能率的な処理ができるように練習問題に繰り返し取り組むようにしたい。
図形	○県平均より1.2ポイント上回っている。「与えられた2つの辺の続きをかくてひし形を完成させる」については、県平均より10.0ポイント上回っている。 ●「直方体においてある面と垂直な辺を選ぶ」については、県平均より1.8ポイント下回っている。	・図形の学習で作図や構成の指導において、図形の約束や性質を確認させながら取り組んでいくようにさせる。 ・ひし形の作図については、ひし形の性質である「四辺の長さが等しい」ということが再確認でき、作図の技能を向上させるような問題のプリントで定着させていくようにする。
数量関係	○「図を用いて比較量と倍から」基準量を求める式を選ぶ」において、県平均3.6ポイント上回った。また、「式を読み取り問題場面と関連付けて考え方を説明する」については、県平均5.6ポイント上回った。 ●「図や表から変わり方を考え、表にあてはまる数を求める」については、県平均14.4ポイント下回った。	・自分の考えを振り返り、誤りの原因を判断し的確に修正することができるように指導を行う。 ・社会の資料などで折れ線グラフの読み取りを意識的に取り入れることで、折れ線グラフに親しませ、より身近に感じられるようにする。

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	51.0	53.7	52.5
	生命・地球	62.4	64.9	64.3
観点	科学的な思考・表現	53.1	54.7	53.4
	観察・実験の技能	53.5	50.8	50.3
	自然事象についての知識・理解	61.5	65.7	64.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○平均正答率は、県平均とほぼ同じである。空気と水の性質についての問題は県平均を7.7ポイント上回った。</p> <p>●水から氷のなる時の体積の変化・金属が冷やされた時の体積の変化についての問題が、県平均を13.3ポイント下回っている。</p>	<p>・実験の際には、実験方法を児童に考えさせ、比較実験の基礎事項を確認し、話し合いによって結果を分析するなどの活動を取り入れ、学力を向上させるようにしたい。</p> <p>・金属、水、空気と温度の問題に課題がある。実験に際しては、問題・予想・結果・考察の過程をしっかりと行い、重要なポイントを強調するなどして、学習内容の理解を深めていく。</p>
生命・地球	<p>○人体のつくりと運動にかんする問題は、県平均を8.4ポイント上回った。また、気温の変化に関する問題では、県平均を6.6ポイント上回った。方位磁針の正しい使い方3.2ポイント、天体の観測は6.1ポイント県平均を上回った。</p> <p>●水の自然蒸発の問題が、県平均を13.4ポイント下回った。</p>	<p>・名称を覚える知識理解については、繰り返しプリント学習を行ったり、図表、視聴覚教材を活用したりして理解を深めたい。</p> <p>・水の自然蒸発の問題は、ラップでふたをしたビーカーの場合、ふたの内側に水滴がつかないと解答してしまった児童の割合が多かった。実験に際しては、しっかりと観察させ、現象を記録し、考察を話し合うよう指導する。</p>

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「勉強していて、おもしろい、楽しいことがある」については、パソコンやパワーポイントを用いて学習を実施した成果として県肯定回答平均を3.5ポイント上回った。
- 「クラスは発言しやすい」については、授業中子どもたちのどんな発言でも取り上げ賞賛するようにした結果、県肯定回答平均を3.6ポイント上回り発言・発表の肯定割合は高い結果になった。
- 「できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている」については、課題解決学習を多く取り上げるようにした所、県肯定回答率を2.4ポイント上回る結果になった。
- 「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」については、学活や係活動等話し合いやグループでの話し合い活動を取り組ませた結果、県肯定回答率を7.8ポイント上回った。
- 「国語・社会・算数」について、ITや少人数学習指導を実施した結果、「好き」と答えた割合が県平均肯定回答率を上回った。
- 「自分はクラスの役に立っていると思う」と答えた児童の割合について、お互いを認め合うカード記入し掲示したところ自己肯定感が高まり、県平均肯定回答率を8.1ポイント上回った。
- 「家で学校や決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている」は県平均肯定回答率から19ポイント、「家で学校の授業の予習をしている」が7.4ポイント、「家で学校の授業の復習をしている」が22.1ポイントそれぞれ下回り、肯定回答率が低い傾向であった。家庭学習について多くの課題が見られたので、個人懇談や授業参観・懇談会等において、家庭と連絡をとる機会を多く設けるようにしたい。